

大学の世界展開力強化事業（平成 29 年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	BI01

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">S</div>	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
コメント 本プログラムは、オールジャパンのプラットフォーム構築を目指し、戦略的な情報発信によって日印の大学間交流を一層促進することを目的としている。 これまでの交流実績を背景に、プラットフォーム構築においてインド事務所と連携し、事務局体制の構築と強化を着実に進めており、同事務所が有する産官学ネットワークや交流活動におけるノウハウを活用することで、両国産官学の協力を幅広く得て、効率的な交流活動を行っている。また、対象者への訴求効果を意識したウェブサイトや SNS による情報発信、シンポジウムの開催により、国内大学間や日印大学間での課題の共有と意見交換を促進することや、大学教員に加え、産業界からもインドとの交流に積極的に取り組む企業の代表者が一堂に会する機会を創出している。このほか、本事業により支援を受ける大学の FD 研修会や STS フォーラム・インドワークショップに参加するとともに、各大学はもとより、国際交流に積極的な機関との協力関係を広く発信して取組内容を周知している点は評価できる。さらに、日本国内の大学・企業等と連携することでプログラムを通じた多様なレベルでの日印交流が活性化していることが窺え、プラットフォーム構築プログラムとしての役割は十分に果たしているものと言える。今後も産業界とのより一層の連携を期待したい。 一方で、インドの学生を日本との協業に積極的に参画させるべく、大学間や産学間のみならず学生レベルでの交流も意識されている点は評価できるが、日本の大学の国際化の観点から、インドからの大学院への留学促進について、今後も積極的に行うことが望まれる。また、シンポジウム参加者の多様性の拡大に向けて検討を重ねていくことが期待される。 さらに、日印の交流活性化を目指して規模を拡大させながらシンポジウム等が開催されているが、プラットフォームへの参画に対する各採択大学の当事者意識の向上や両国の経済連携強化に向けた取組による成果を分析し、今後の展望について具体的かつ明確なロードマップを策定することが望ましい。 最後に、今後も補助期間終了後の安定的な財源確保に努めるとともに、我が国と相手国の大学間交流の促進に向け、プラットフォーム構築事務局として引き続き積極的にプログラムを展開していくことを期待する。	